

『立教大学日本学研究所年報』第十四・十五号（二〇一六年八月）

巻頭言 水谷隆之 1

特集① 二〇一五年度公開シンポジウム

近代日本の偽史言説 その生成・機能・受容

開催概要・発表要旨 4

公開シンポジウム「近代日本の偽史言説 その生成・機能・受容」 小澤実 9

特集② 二〇一五年度公開シンポジウム

史学史上の黒板勝美——日米における新たな研究動向

開催概要 12

黒板勝美研究の可能性 佐藤雄基 13

近代日本の国家形成と歴史学——黒板勝美を通じて ヨシカワ・リサ 15

日本近代史学史研究の現状と黒板勝美の位置 廣木尚 26

コメント 松沢裕作 33

研究論文

ソロモンの偽装——前篇・知見 飯郷友康 36

「因縁」は説明できるか——森鷗外「寒山拾得」論 高野奈保 43

芥川龍之介「報恩記」論——〈探偵小説〉と〈忍者小説〉を架橋する 乾英治郎 52

「見えないもの」が見せてくれるもの——長嶋有「猛スピードで母は」論 正田雅昭 62

希望としての『3・11』演劇——館屋法水『ブルーシート』試論 松本和也 72

二〇一五年度研究記録 82

編集規約 83

編集後記 84